

令和8年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

両城中学校区 校番 14 学校名 呉市立両城中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	年度当初に設定された目標、指標どおりに教育が実践されている。運営協議会は、これを評価する。年度の最終までこの目標、指標が維持されることを期待する。1年間の継続された教育の実践が願われる。
目標達成のための方策の適切さ	A	教職員間の情報の共有の一層強化を計りながら、目標達成のための方策がなされていることが伺われる。常にこの目標達成のための方策を意識しながら、教職員の相互の協力関係を構築していただきたい。生徒への多種社会の情報開示をしていただきたい。理想が先行し過ぎることのないよう配慮しつつ、現実の社会の実体を生徒たちが少しでも多く理解できるような教育を期待したい。現時点での方策は妥当と思われる。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	適切な自己評価であるとともに、分析についても適切である。過大評価もなく、また分析も詳細である。年度末においてこの中間の自己評価と分析が活かされていることを、大いに期待する。教職員間での自己評価、教職員間での分析に終わることなく、生徒たちへの教育の実践に反映がなされたものであることを期待したい。そこが次年度への教育の実践につながるものと思われる。
今後の改善策(案)の適切さ	A	教育の計画、実践は終わりにきものではあるが、改善策も適切である。年度末まで、現在の授業が維持され、次年度に結びつくものであって欲しい。学校運営は、継続的なものであり、現在の学校運営の良好さを年度末まで継続し、次年度に結びつくものになることを期待したい。
その他		委員の参観によって、緊張することが予想されたが、生徒たちが自由、闊達に授業に取り組んでいることが印象的であった。担当教員の授業の運営も称賛に値するものであった。学びはまず、生徒たちが自由、闊達であることが必要であると思われる。その意味で、満足するものであった。担当教員の授業の計画、実践が十分になされていることが伺われる。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	○本校の取組について評価をしていただいている中、目標や方策、指標について教職員間で改めて共通認識をもったり必要に応じて軌道修正や深化を図ったりすることができるよう再度確認し、特に次のことに重点をおいて教育活動を進めていく。 【確かな学力の向上】 ・ICTの効果的な活用により、主体的な学びを推進する。 ・「二川授業スタイル」を柱に、考える授業づくりを推進する。 【豊かな心の育成】 ・いじめ撲滅キャンペーンの取組等、生徒の主体的な活動を推進する。 ・生徒指導の4つの視点を基盤に、自己肯定感・有用感を高める。 【健やかな体の育成】 ・自分の生活を自分でコントロールする力を向上させる。 ・地域の災害リスクを踏まえた実践的な防災教育に系統的に取り組む。 【業務改善】 ・教職員がチームとして協働する中で、達成感を味わえるようにする。
--------------------	---